

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05272	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	RNA 修飾の変動と生命現象	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	鈴木 勉 (東京大学・大学院工学系研究 科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は研究代表者らが立ち上げた RNA の化学修飾を網羅的に同定する分析系を用いて、RNA 修飾の制御とその生理的な役割を明らかにすることを目的としている。</p> <p>既に高い新規性を有する国際的競争力の高い研究成果を得ており、特に mRNA キャップ構造の m⁶A 修飾機構と翻訳における機能解明は特筆すべき研究成果である。また、研究成果の発表も進んでおり、研究は順調である。</p>		